

「野生型」コイの稚魚生産と放流

太田 豊三・大澤 宏史

1. 目的

KHVにより著しく減少した「野生型」コイ資源の回復のため、過年度「湖辺のにぎわい復活事業」等において、その対策研究や環境改善を目指した種苗放流が実施されてきたところである。

引き続き、本年度も「野生型」コイの種苗生産放流を実施した。

2. 方法

- ・親コイの由来
琵琶湖水域で採集し、水試池で養成
年齢3年以上の経産魚
- ・飼育水は全期間通じて地下水を使用
- ・産卵から放流までの経過
4月29日産卵（産卵床「キンラン」）
5月4日ふ化始まる
5月13日ふ化仔魚数：推定34,000尾
5月14日餌付け開始
6月11日放流前のKHV検体60尾（鰓）
抽出
6月16日KHV検査結果：全てマイナス
6月18日取上計測、車両輸送、放流
（200尾を飼育用として残し、その後の成長と体型等の推移を追跡する）

3. 放流結果

- ・放流場所：草津市北山田地先のヨシ帯
- ・放流尾数：24,765尾
放流体型＝体長 16.17 ± 1.55 mm
- ・放流重量：2,328g
平均体重＝0.1g/尾



酸素詰めで運搬（4,000～5,000尾/袋）



放流場所の遠景（北山田工区がみえる）



草津市北山田地先のヨシ帯に放流